



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.20

令和4年6月10日

文責：校長 伊藤孝行

6年生修学旅行が無事に終わりました。

今年の6年生は、昨年度の新型コロナウイルスの感染拡大により、宿泊学習を実施することができませんでした。子どもたちの小学校生活の中でも特に思い出深い行事を実施しないまま卒業を迎えることは絶対にあってはならないという思いで、今回実施しました。

実施に当たり子どもたちは、4月からこの日を待ち望んでおり、計画や下調べは、子どもたちが中心となって進めてきました。



保護者の皆様のご理解とご支援により、今回の修学旅行を実現できました。お陰様で子どもたちは有意義な二日間を過ごすことができました。紙上をお借りして御礼申し上げます。

友だちと仲良くする＝相手に合わせる??

今、A君は困っています。それは、B君とC君との友だち関係のことです。



A君：サッカーは普通、ゲームは上手な方

B君：サッカーは上手、ゲームは下手

C君：サッカーは嫌い、ゲームは達人

A君「サッカーはしたいけど、B君と一緒にだといつもゴールキーパーをさせられるんだよね。それに、C君はサッカーには来ないし。そうだ今日は、C君とゲームをして新しい攻略法を教えてもらおう。」

A君「B君ごめんね、C君とゲームをするので今日は遊べないよ。」

B君「お母さん、僕A君とサッカーしたいのに何で遊んでくれないのかな。僕、仲間外れにされているのかな。」

B君母「先生、うちのBは、A君とC君に仲間外れにされています。Bの得意なサッカーで遊ばないで、二人でゲームをしているなんていじめです。何とかしてください。」

先生「・・・・?」

この場合、A君は自分がゲームをしたいのを我慢して、B君とサッカーをやらないと「いじめ」になってしまうのでしょうか?

答えはNOですよね。片方が我慢してもう片方に合わせなければならないのは、正しい友だち関係ではありません。

しかし、子どもたちの間には似たようなケースがよくあります。特に学年が下の子どもの中には、少数ですが、自分がしたいことが通らないと「泣く、怒る、暴れる、相手のせいにする、『いじめられた・仲間外れにされた』と親に言いつける」と、自分のしたいこと（わがまま）を通そうとする子どももみられます。

「友だちと仲良くする」ということは、自分がやりたいことに周りの子が合わせてくれることではありません。主張することは主張するが、受け入れるところは受け入れるという「折り合いをつける」ということです。



子ども同士の行き違いやトラブルは、様々な場面で「どう折り合いをつけていくのか」を学ぶ場所です。そして、「嫌な思いをしない、させない」言動はどうあればよいか、泣いたり笑ったりしながら少しずつ少しずつ覚えていくのです。

親としては、子どもたちの人間関係は気になるし心配なところですが、B君のお母さんのように、自分の子どもを中心に物事を考えると、どんなこともトラブルになってしまうように思います。